〈第７回肝炎治療コーディネーター教育セミナーのご報告の内容〉

平成 27 年 3 月 19 日に第 7 回肝炎治療コーディネーター教育セミナーを開催しました。
70 名の出席者（コーディネーター47 名）となりました。
まず、本田先生に C 型肝炎の最新情報を提供していただきました。大変わかりやすく、以下の点を強調していました。

1. インターフェロンフリーの治療が導入され、従来のインターフェロンベースの治療に比し、75 歳以上の患者さん、肝硬の患者さんへ対象者が大きく広がりました。
2. 受検から受療までのハードルが低くなりました。
3. 経口 2 剤は副作用が軽微であり、耐性プロフィールを調べて、耐性株のない患者さんではほとんどの人が治癒できる。
4. 副作用としては肝機能障害があるので、2 週間に 1 度採血が必要である。
5. 高率に治癒するので、SNMC（キョウミノ）、ウルソ、インターフェロン少量長期などの従来の治療から、内服 2 剤への治療の見直しが必要である。

特別企画：事例報告 1、 「行政における受検の取り組み」　臼杵市役所　保険健康課　石田幸江さん

石田さんが行政における健康診断における肝炎患者の掘り起こしについて、臼杵市での取り組みをわかりやすく説明してくれました。

臼杵市の人口は 41,250 人であること。国民健康保険加入者 11,248 人、健診対象年齢である 40 歳から 74 歳の平成 25 年度の健診受診者は 3,552 人（40-74 歳）で、受診者率は 43.2%であったこと。また受検勧奨対象者は、ALT 精密（46IU/L 以上）119 人、ALT 要指導（31-45 IU/L）は 350 人で、肝炎検査未検査は 152 人であったこと。受検者は 48 人、B 型肝炎が 1 名いたことを提示してくれました。肝機能異常の人を中心に肝炎教室を開いている。今後の課題としてウイルス肝炎は若い人では少ないので､肝機能異常の原因である脂肪肝対策と受検率向上が挙げられる｡また平成 27 年度から follow up　事業を開始する予定。

講演の後半では臼杵市が取り組んでいる糖尿病対策について詳しく説明してくれました。糖負荷試験後保健師による介入により糖尿病発症を減少させることができた。また臼味弁当の試み、「tan tan」tool の試みを紹介してくれました。

「10 年先を見越した予防活動」を行なっている臼杵市役所の健康保険課の皆さんに感銘を受けました。

特別企画：事例２、 「当院における肝炎スクリーニング検査の現状」　KKR 新別府病院　藤本絢子さん

2015 年 1 月 1 日～2 月 28 日までの全入院患者 810 名うち HBs 抗原、HCV 抗体検査実施した 434 名の患者さんのうち、HBs 抗原陽性は 7 名で 1.53%、HCV 抗体陽性者は 17 名で 3.94%であった。陽性者に対してアンケートを実施し、未治療患者の掘り起こしへの取り組みを講演してくれました。

全く肝炎を知らなかった方は 17 名中 6 名で、治療中は 8 名、受診して説明を受けたことがある 3 名でした。全国の献血データと比較し、掘り起こし率は高かった。後半は症例を呈示してくれて、HCV 抗体陽性であれば HCVRNA を精査することが大事で、HCVRNA 陰性であれば十分説明することが患者さんの不安を取り除くことになる。症例２のかたもインターフェロンで治癒しても HCV 抗体陽性が続くので、この点を説明する必要がある。患者は再発したかと不安になる。症例３は B 型肝炎のかたで、今回の検査まで、全く知らなかったとのことです。HBVDNA 量が少なく、肝臓専門医が経過をみている。最後は肝炎治療コーディネーターの役割を簡潔にまとめてくれました。また、藤本さんの講演で印象深かったのは、検査陽性の告知は不安伴うものであり、説明用紙を用いて十分な説明をすることが重要であるとのことを示してくれました。また、地域の連携も今後は考えたいとのことでした。

お二人の講演をもとにグループで話合いをして２つのグループから意見をもらいました。
病院の外来看護師さんが、コーディネーターとして病院内でコーディネーターとしての意見を言う機会が少ない。患者さんと接しきれていないのでもっと積極的に患者さんに接していきたい。との意見を述べました。

文責　清家正隆